

令和 7 (2025)年度										年 間 授 業 計 画					
教科・科目			国語 古典探究				2			単位					
対象学年・組			3 年生 文系(含む特進)				文系 必修修								
教科書 (出版社)			精選古典探究 (大修館書店)												
学習目標 【観点別】			国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。【知・技】 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現する能力を育成する。【思・判・表】 国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。【態】												
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価基準		話 聞	書 き	読 み	知 識	思 考	態 度	
1	前半	12	1	随筆	・登場人物の人間関係や話の展開を理解して作品を読み味わう。 ・基本的な文法事項の確認、助詞・助動詞について理解する。		【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開を的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】宮廷生活に対して興味を持ち、作者の感性や機知を理解しようとしている。		○	○	○	○	○	○	
	後半	12	2	日記	・日記文学の特色を理解し、女性のものの考え方を読み味わう。 ・助動詞の意味を理解する。 ・敬語について、尊敬・謙譲・丁寧の区別を理解する。		【知識・技能】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】作品や作者について関心を持ち、日記文学への理解を深めようとしている。		○	○	○	○	○	○	
2	前半	16	3	史伝 (一)	・訓読の決まりに従って、漢文を書き下し、全体の内容を大まかに理解する。 ・登場人物の人物や生き方について考える。		【知識・技能】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】作品の文学史的な位置づけを理解し、登場人物の心情をつかもうとしている。		○	○	○	○	○	○	
	後半	16	4	史伝 (二)	・長い文章を読み、漢文の読解に慣れる。 ・登場人物の人間関係を正確につかみ、それぞれの心理の動きをたどる。 ・『史記』と司馬遷について知り、史伝のおもしろさを味わう。		【知識・技能】古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、作品の成立した背景などをふまえながら古典を読み、その内容の解釈を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】『史記』について興味を持ち、登場人物の行動や心情について考えようとしている。		○	○	○	○	○	○	
3		14	5	和歌	・和歌の発想や表現、韻律、修辞法など、独特の表現方法を理解する。 ・それぞれの歌集・歌人の特色をつかませる。		【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】和歌に興味を持ち、歌人やその時代の背景に興味を持ち、自分なりの解釈を行おうとしている。		○	○	○	○	○	○	
評価の観点 (評価基準)			【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【主体的に取り組む態度】古典文学と現代のさまざまな作品とのつながりを理解しようとしている。												
評価の方法			・観察・ワークシート・小テスト・定期考査												
学習の手引き			○毎回の授業を大切に、知識を正確に身に付ける。 ○古典文学に親しみ、国語に関する世界を広げようという意識を持つ。 ○知識から得られた発想や思考を積極的に発表する態度を育てる。												
授業担当者			古川洋子・田中まどか												

令和 7 (2025)年度										年 間 授 業 計 画									
教科・科目			国語				論理国語				2				単位				
対象学年・組			3 年生								必履修								
教科書 (出版社)			新編 論理国語 (大修館書店)																
学習目標 【観点別】			実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識・技能】 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考・判断・表現】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【主体的に学習に取り組む態度】																
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容				評価規準				話 聞	書 読	読 知	思 考	態 度		
1	前半	12	1 自己を見つめて 探究する力 補助線を引きながら 考える		・筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味する。 ・論の展開のしかたや具体例の役割について考える。				【知・技】論証したり学習の基礎を学んだりするために必要な語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】【思・判・表】文章の内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、要旨を把握している。【B(1)ア】【主】論理的に考える力を伸ばそうとしている。				○	○	○	○	○	○	
	後半	12	2 思考を深める ミロのヴィーナス 3 社会に向かって 志望先への提出書類		・筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味する。 ・論理の展開や比喩的な表現の意図をとらえる。 ・進路で必要とされる書類についての概要を知り、それぞれの目的をつかむ。				【知・技】情報と情報との関係について理解を深めている。【(2)ア】【思・判・表】内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしなが要旨を把握している。【B(1)ア】【主】筆者の考えを読み取ることに興味をもち、主張と根拠の関係をとりえようとしている。				○	○	○	○	○	○	
2	前半	14	4 視点を変えて 人類の進化から考える 「心」の誕生 ロボットに心はあるか		・複数の文章を比較・分析しながら読み、考えを深める。 ・問題提起と答えの関係を的確にとらえ、自分の考えをもつ				【知・技】自らの考えを論証するために必要な語句の働きを理解し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】【思・判・表】論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしなが要旨を把握している。【B(1)ア】【主】実生活でのさまざまな問いに対して積極的に考えようとしている。				○	○	○	○	○	○	
	後半	14	6 現代を考える 政治の本質 「である」ことと「する」こと		・日本社会や世界が抱える課題に関心をもち、考えを広げたり深めたりする。 ・問題提起と答えの関係を的確にとらえ、自分の考えをもつ				【知・技】自らの主張を論理的に述べるために必要な語句に目を向け、語感を磨き語彙を豊かにしている。【思・判・表】根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、解釈している。【B(1)ウ】【主】適切な根拠を示しながら、自分の主張を展開しようとしている。				○	○	○	○	○	○	
3		18	7 未来に目を向けて 人口減少社会の到来		・日本社会や世界が抱える課題に関心をもち、考えを広げたり深めたりする。 ・さまざまな資料を参照しながら文章を読み、筆者の考えをとらえる。				【知・技】自らの主張を論理的に述べるために必要な語句に目を向け、語感を磨き語彙を豊かにしている。【思・判・表】根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、解釈している。【B(1)ウ】【主】情報を的確に比較・整理しながら、筆者の考えを読み取ろうとしている。				○	○	○	○	○	○	
評価の観点 (評価基準)			実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知・技】論理的、批判的、創造的に考える力を伸ばすしている。【思・判・表】言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度で言葉の持つ価値を認識し、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主】																
評価の方法			観察、ワークシート、小テスト、レポート、定期考査																
学習の手引き			○日々の学習を大切に、授業に積極的に参加すること。 ○生涯にわたり必要な国語の知識・技能を身に付け、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																
授業担当者			田中まどか 、 花嶋幸子 、 明正利恵																

令和 7 (2025)年度										年 間 授 業 計 画									
教科・科目			国語					文学国語					2		単位				
対象学年・組			3 年生 文系										必履修						
教科書 (出版社)			新編 文学国語（大修館書店）																
学習目標 【観点別】			言葉がもつ価値への認識を深め、必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識・技能】 文学的な文章に親しみ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考・判断・表現】 主体的・対話的で深い学びをとおして、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】																
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標			指導項目・内容			評価規準			話 聞	書	読	知	思	態		
1	前半	12	1心を見つめる クルミの小部屋 2小説を楽しむ（二） 待合室			・具体例をもとに筆者のメッセージを読み取る。 ・登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながら読む。			【知・技】・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 【思・判・表】・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。〔B (1)ア〕 【主】・筆者の考え方と比較しながら、自分の生き方について考えを深めようとしている。			○	○	◎	◎	◎	◎		
	後半	12	5小説を味わう 山椒魚			・引用された作品を読み、解釈を深める。 ・登場人物する生き物たちの性格や心理を読み取る。			【知・技】・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている〔(1)イ〕 【思・判・表】・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B (1)イ〕 【主】・登場人物の心情を読み取ることに興味をもち、作品の構造を理解しようとしている。			○	○	◎	◎	◎	◎		
2	前半	14	6名作を読む（二） こころ			・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。			【知・技】・我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思・判・表】・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。〔B (1)ウ〕 【主】・作品に興味をもち、小説の文体や登場人物の心情について理解を深めようとしている。			○	○	◎	◎	◎	◎		
	後半	14	5小説を味わう 離さない 7文学を生み出す 私たちの黄色 タイムリミット			・登場人物たちの性格や心理を読み取る。 ・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。			【知・技】・我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思・判・表】・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。〔B (1)ウ〕 【主】・作品に興味をもち、小説の文体や登場人物の心情について理解を深めようとしている。			○	◎	◎	◎	◎	◎		
3		18	7文学を生み出す 書斎			・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。			【知・技】・我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思・判・表】・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。〔B (1)ウ〕 【主】・作品に興味をもち、小説の文体や登場人物の心情について理解を深めようとしている。			○	◎	◎	◎	◎	◎		
評価の観点 （評価基準）			言葉がもつ価値への認識を深め、必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知・技】文学的な文章に親しみ、共感したり想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養っている。【思・判・表】主体的・対話的で深い学びをとおして、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。【主】																
評価の方法			観察、ワークシート、小テスト、レポート、定期考査																
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○生涯にわたり必要な国語の知識・技能を身に付け、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																
授業担当者			花嶋幸子 、 明正利恵																

令和 7 (2025)年度										年 間 授 業 計 画		
教科・科目			地理歴史				日本史探究		4 単位			
対象学年・組			3 年生 文系(含む特進)				必修選択					
教科書 (出版社)			日本史探究「高校日本史」 (山川出版社)				図説日本史通覧 (帝国書院)					
学習目標 【観点別】			我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。(知識・技能) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、概念などを活用して多面的・多角的に考察したりしたことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。(思考・判断・表現力) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、多面的・多角的な考察や日本国民としての自覚、尊重することの大切さについての自覚などを深める。(主体的に学習に取り組む態度)									
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	態	
1	前半	24	近世・近代(1)		・近世の幕開け ・幕藩体制の成立と展開 ・幕藩体制の動揺		諸資料を読み取り、江戸時代の社会、文明開化の風潮について、理解している。 幕藩体制の特質、欧米の思想の影響を多面的・多角的に考察し、表現している。 幕藩体制が確立する画期、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。		○	○	○	
	後半	24	近世・近代(2)		・近世から近代へ ・近代国家の成立		対外政策の変容と開国に至る動き及び締結された条約の不平等性について理解している。 近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現している。 開国以降の日本の貿易において、生糸の生産と輸出の振興をはかる経済政策がとられた背景を諸資料から読み取っている。		○	○	○	
2	前半	28	近現代(1)		・近代国家の展開と国際関係 ・近代の産業と生活		明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 日本がどのような契機によって近代の国家・社会へと向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。 明治維新の諸政策、特に廃藩置県・地租改正・富国強兵・殖産興業政策を通して、日本の近代化の特徴について追及している。		○	○	○	
	後半	28	近現代(2)		・近代の産業と生活 ・恐慌と第二次世界大戦		日清・日露戦争の前後における条約改正の実現、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、世界的な経済恐慌のもと、国内の経済対策と経済の動揺などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。		○	○	○	

令和 7 (2025) 年度										年 間 授 業 計 画		
教科・科目			地理歴史 世界史探究				4 単位					
対象学年・組			3 年生 文系(含む特進)				必修選択					
教科書 (出版社)			世界史探究「高校世界史」(山川出版社)				最新世界史図説タペストリー(帝国書院)					
学習目標 【観点別】			基礎・基本を重視し、歴史の大きな流れを把握することで歴史的事象の因果関係を理解する。 【知・技】 社会的事象の歴史的な見方や考え方を働かせ、現代社会における諸課題に対する解決方法を追求する力を養う。【思・判・表】 対話的な学びや深い学びを意識し、主体的に歴史を考察する態度を身につける。【態】									
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態			
1	前半	24 産業革命と大西洋革命 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	・産業革命 ・アメリカ独立 ・フランス革命 ・中南米独立 ・ウィーン体制		・歴史の基本知識を理解しているか。 ・対話的な学びを通して、主体的に歴史を考察しているか。 18～19世紀にかけての大西洋沿岸地域での社会変革が、世界やヨーロッパ諸国にどのような変化をもたらしたか理解する。		○	○	○			
	後半	24 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 帝国主義とアジアの民族運動	・ヨーロッパの再編成 ・アメリカ発展 ・第2次産業革命 ・帝国主義 ・世界分割		・歴史の基本知識を理解しているか。 ・対話的な学びを通して、主体的に歴史を考察しているか。 欧米列強の植民地獲得と勢力圏拡大の動きや、その動機について考察する。		○	○	○			
2	前半	28 帝国主義とアジアの民族運動 第一次世界大戦と社会の変容	・アジア諸国の変革と民族運動 ・第一次世界大戦 ・ロシア革命 ・ヴェルサイユ体制		・歴史の基本知識を理解しているか。 ・対話的な学びを通して、主体的に歴史を考察しているか。 第一次世界大戦とロシア革命がどのような経緯で発生し、その後の国際秩序にどのような影響を与えたかを理解する。		○	○	○			
	後半	28 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 冷戦と第三世界の台頭	・世界恐慌 ・第二次世界大戦 ・冷戦 ・第三世界の台頭 ・冷戦体制の動揺		・歴史の基本知識を理解しているか。 ・対話的な学びを通して、主体的に歴史を考察しているか。 第二次世界大戦がどのように全世界に拡大したのか、大戦後の東西陣営の対立が冷戦にどのような影響を与えたかを理解する。		○	○	○			
3	36	総まとめ・演習	今までの学習内容を統合し包括的に歴史の流れを確認ながら入試問題を解く		様々なタイプの入試問題に取り組み解説を行う。		○	○	○			
評価の観点 (評価基準)		○授業やグループワークなどに主体的に取り組んでいるか。 ○基礎・基本的事項や歴史の大きな流れを把握し理解しているか。										
評価の方法		定期考査、学習状況や授業プリント・出席状況・授業態度等を加味して総合的に評価する。										
学習の手引き		○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加する。 ○世界史上の出来事を通して現代社会の諸問題について主体的に考察する。										
授業担当者		早稲田 弘貴										

令和 7 (2025)年度				年 間 授 業 計 画					
教科・科目			公民	政治・経済	2	単位			
対象学年・組			3 年生 文系(含む特進)		必履修				
教科書 (出版社)			政治・経済（実教出版社）						
学習目標 【観点別】			・ 高校卒業後に必要な政治・経済の基礎的・基本的知識を獲得し、自ら考える力を高める。 ・ 自分の生活の身近な話題に関心を持てるよう、新聞等を活用できる能力を身に付ける。 ・ 現代日本の諸課題について主体的に考察し、公正に判断し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。						
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12 民主政治の基本原則 日本国憲法の基本原則 日本の政治機構	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③現代の民主政治 ④世界の主な政治体制 ⑤日本国憲法の制定と基本原則 ⑥基本的人権の保障、平和主義 ⑦国会と立法、内閣と行政、裁判所と司法		・ 授業のルールを守って学習する ★青年期に関する現代の諸課題について、考察する ★新聞等で話題になっている事柄についてどう思うかを問い、現代社会に関する思考力を高める。		○	○	○
	後半	12 日本の政治機構 現代政治の特質と課題 現代の国際政治	①地方自治 ②戦後政治と政党 ③選挙と政治意識、世論と政治参加 ④国際政治の特質、国際社会と国際法 ⑤国際連合の役割と課題 ⑥戦後国際関係の展開と日本 ⑦国際政治の課題		・ 板書及び説明、写真や図等を通じて、学習内容への学びを深める ★主権者として自分がどう政治に関わっていくかを考える。 ★近年の大学入試の傾向を説明し、受験にもつながるような思考を促す。		○	○	○
2	前半	14 現代の資本主義経済 現代経済のしくみ	①資本主義体制の成立 ②資本主義経済の発展と変容 ③経済主体と経済の循環 ④生産のしくみと企業 ⑤市場経済の機能と限界 ⑥国民所得と経済成長 ⑦金融の仕組みと機能 ⑧財政の仕組みと機能		・ 板書および説明、写真や図などを通じて、学習内容への学びを深める ★経済の学習と自分たちとの関わっているのか、具体的な事柄から考察する		○	○	○
	後半	14 日本経済の発展と産業構造の変化 福祉社会と日本経済の課題 国民経済と国際経済	①経済再建から高度成長へ ②オイル・ショック後の日本経済 ③日本経済の現状、公害と環境保全 ④消費者問題、農業・食糧問題 ⑤中小企業の現状と課題 ⑥雇用と労働問題、社会保障と福祉 ⑦貿易と国際収支、国際経済体制の展開		・ 労働者になることを目前に控えた存在として、労働にまつわる諸知識を身に付ける ★近年の雇用の問題を理解して、職業選択の意識を高める。 ★近年の大学入試の傾向を説明し、社会科の他科目での受験にもつながるような思考を促す。		○	○	○
3	18	日本社会の諸課題 国際社会の諸課題	①少子高齢化と社会保障 ②地域社会の活性化 ③若者の労働環境改善 ④中小企業の活路 ⑤日本の「食」と「農」 ⑥経済援助と貧困 ⑦地球社会と日本		・ 社会に出ることを目前に控えた存在として、現代社会の諸課題への理解を深める ・ 学校での学びを生かし、自己の社会生活の在り方を考察する ★話し合い活動を通じ、現代の諸課題に関する賛否を議論する		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			・ 基礎的・基本的な事項を理解しているか。 ・ ワークシートや発表等で自分の考えを自分の言葉で人に伝えることが出来ているか。 ・ 授業への参加態度、発言など。						
評価の方法			定期考査を中心に評価をする。 加えて、授業態度、提出物への取り組み、出席状況も考慮する。						
学習の手引き			・ 物事に対して「なぜなのか」「どうしてなのか」という疑問を持てるように、身近な題材を扱いながら、考えさせる学習を取り入れる。 ・ 学習全体を通して、自己の幸福と社会の幸福のバランスの在り方を考察させながら、自身が「いかにして生きるか」ということを考察できるよう工夫する。						
授業担当者			岡田 博彰						

令和7(2025)年度										年 間 授 業 計 画		
教科・科目			数学				数学ⅠA		4 単位			
対象学年・組			3 年生 理系				必修選択					
教科書 (出版社)			高等学校数学Ⅰ(数研出版) 高等学校数学A(数研出版)				新課程 リンク数学演習Ⅰ・A 受験編(数研出版)					
学習目標 【観点別】			1. 基礎・基本を確実に身に付けさせ、基礎的な知識・技能を習得させる。【知識・技能】 2. 生徒の主体的・創造的な学習能力の育成を図り、生徒が学習の達成感を実感することが出来るようにする。【思考・判断・表現】 3. 生徒の数学に対する興味・関心を深め、数学的な見方や考え方の良さや有用性を実感できるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】									
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	態	
1	前半	24	図形と計量 データの分析 場合の数と確率		1. 三角比 2. 図形への応用 3. データの分析 4. 場合の数 5. 順列・組合せ 6. 独立な試行と確率 7. 条件付き確率		各単元の公式・定理の確認 基本例題で基礎知識の習得 時間に余裕があれば発展、 研究の内容を取り扱う		○	○	○	
	後半	24	図形の性質 整数の性質 式の計算		8. 三角形の性質 9. 円の性質 10. 約数と倍数 11. ユークリッドの互除法 12. 整式の加法と減法 13. 整式の乗法 14. 因数分解		各単元の公式・定理の確認 基本例題で基礎知識の習得 時間に余裕があれば発展、 研究の内容を取り扱う		○	○	○	
2	前半	28	実数 一次不等式 命題と条件		15. 実数 16. 根号を含む式の計算 17. 不等式の性質 18. 1次不等式 19. 絶対値を含む方程式・不等式		各単元の公式・定理の確認 基本例題で基礎知識の習得 時間に余裕があれば発展、 研究の内容を取り扱う		○	○	○	
	後半	28	二次関数 二次方程式と二次不等式		20. 集合 23. 命題と証明 24. 関数とグラフ 25. 2次関数のグラフ 26. 2次関数の最大・最小 27. 2次関数の決定 28. 2次方程式 29. グラフとx軸の位置関係		各単元の公式・定理の確認 基本例題で基礎知識の習得 時間に余裕があれば発展、 研究の内容を取り扱う		○	○	○	
3		36	大学入試問題		数学Ⅰ・Aの内容の大学入試問題		各単元の公式・定理の確認 基本例題で基礎知識の習得 時間に余裕があれば発展、 研究の内容を取り扱う		○	○	○	
評価の観点 (評価基準)			教科書の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。									
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物等により評価									
学習の手引き			・定義や概念を理解する。 ・定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。									
授業担当者			今村 昶信, 櫻井 友之									

令和7(2025)年度			年 間 授 業 計 画									
教科・科目			数学			数学Ⅲ			4 単位			
対象学年・組			3 年生 理系(含む特進)			必修選択						
教科書 (出版社)			高等学校 数学Ⅲ (数研出版)			・ Study-Up ノート数学Ⅲ (数研出版) ・ チャート式 解法と演習 数学Ⅲ・C (数研出版)						
学習目標 【観点別】			1. 基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 2. 物事を数学的に考察し処理する技能・能力を高める。 3. 数学的な見方や考え方を積極的に活用する態度を養う。									
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準			知	思	態
1	前半	24	第1章 関数		1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数		・ 関数を体系的に理解し、正しく計算を行う能力を獲得する。 ・ 関数を用いて等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。			○	○	○
	後半	24	第2章 極限		1. 数列の極限 2. 関数の極限		・ 数列の極限を理解し、その計算を学ぶ。 ・ 無限等比級数や極限值と公比の関係を学ぶ。 ・ 数列の極限を利用して関数の極限を求めることができるようにする。			○	○	○
2	前半	28	第3章 微分法		1. 導関数 2. いろいろな関数の導関数		・ 導関数の定義を理解する。 ・ 様々な導関数を微分できるようにする。			○	○	○
	後半	28	第5章 微分法の応用		1. 導関数の応用 2. いろいろな応用		・ 接線の方程式を求めることができる。 ・ 関数の増減を調べることができる。			○	○	○
3		36	第6章 積分法		1. 不定積分 2. 定積分 3. 積分法の応用		・ 様々な関数の積分を計算できる。 ・ 積分を用いて面積や体積を求めることができる。			○	○	○
評価の観点 (評価基準)			・ 学習目標に対する到達度を評価する。 ・ 学習状態を評価する。									
評価の方法			定期考査・小テスト・課題・授業態度・出席状況など									
学習の手引き			・ 定義や概念を理解する。 ・ 定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・ 演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。									
授業担当者			長田 直樹									

令和7(2025)年度			年 間 授 業 計 画							
教科・科目			数学		数学C		2 単位			
対象学年・組			3 年生 理系(含む特進)				自由選択			
教科書 (出版社)			高等学校 数学C (数研出版)				・ Study-Up ノート数学C (数研出版) ・ チャート式 解法と演習 数学Ⅲ・C (数研出版)			
学習目標 【観点別】			1. 基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 2. 物事を数学的に考察し処理する技能・能力を高める。 3. 数学的な見方や考え方を積極的に活用する態度を養う。							
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12	第1章 平面上のベクトル	1. ベクトルとその演算 2. ベクトルと平面図形		・ベクトルを体系的に理解し、正しく計算を行う能力を獲得する。 ・ベクトルを用いて図形の証明ができるようにする。		○	○	○
	後半	12	第2章 空間のベクトル	1. 空間のベクトル 2. 座標空間における図形		・空間のベクトルを理解し、その計算を学ぶ。 ・座標空間における図形と式の関係を学ぶ。		○	○	○
2	前半	14	第3章 複素数平面	1. 複素数平面 2. ド・モアブルの定理		・複素数平面の定義を理解する。 ・極形式で点を表すことができるようにする。		○	○	○
	後半	14	第4章 式と曲線	1. 二次曲線 2. 媒介変数表示と極座標		・放物線・楕円・双曲線の方程式を求めることができる。 ・様々なグラフを媒介変数を用いて表すことができる。		○	○	○
3		18	第5章 数学的な表現の工夫	1. 行列による表現 2. 離散グラフ		・行列の計算が正しくできる。 ・離散グラフと行列の関係を理解することができる。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			・学習目標に対する到達度を評価する。・学習状態を評価する。							
評価の方法			定期考査・小テスト・課題・授業態度・出席状況など							
学習の手引き			・定義や概念を理解する。 ・定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。							
授業担当者			櫻井 友之							

令和 7 (2025)年度			年 間 授 業 計 画					
教科・科目			理科 物理			4 単位		
対象学年・組			3 年生 理系			必修選択		
教科書 (出版社)			総合物理 1・2 (数研出版)					
学習目標 【観点別】			物理学の基本的な概念等の理解を深め、観察、実験に関する技能を身に付ける。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準	知	思	態
1	前半	24 様々な運動	- 運動量 - 円運動と単振動 - 万有引力		- 運動量と力積との関係、運動量保存の法則を理解している - 円運動をする物体の様子やその物体にはたらく力などについて理解している - 万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解している	○	○	○
	後半	24 様々な運動 波	- 気体分子の運動 - 波 - 光		- 気体分子の運動と圧力との関係について理解している - 波の干渉と回折について理解している - 光の回折と干渉を光波の性質と関連付けて理解している	○	○	○
2	前半	28 電気と磁気	- 電場と電位 - コンデンサー - 電流と磁場 - 電磁誘導 - 交流と電磁波		- 電荷が相互におよぼしあう力を理解している - コンデンサーの性質を理解している - 電磁誘導の法則を理解している - 交流の発生と電磁波の性質を理解している	○	○	○
	後半	28 原子	- 電子と光 - 原子の構造 - 原子核と素粒子		- 電子の電荷と質量について理解する - 電子や光の粒子性と波動性について理解する - 原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位との関係について理解する	○	○	○
3	36	物理のまとめ	大学入試問題演習		問題演習を通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付ける	○	○	○
評価の観点 (評価基準)		○物理的なものの見方・考え方を身に付けられたか ○物理現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか						
評価の方法		定期考査、授業での取り組み、提出物等により評価						
学習の手引き		○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること ○疑問を持ち、観察し、考え、議論すること						
授業担当者		田 代 佑 太						

令和 7 (2025)年度										年 間 授 業 計 画		
教科・科目			理科 生物				4 単位					
対象学年・組			3 年生 理系(含む特進)				必修選択					
教科書 (出版社)			高等学校生物(啓林館)									
学習目標 【観点別】			生物分野に関するこれまでの学習を定着させるとともに、自然の事物・現象について基本的概念や知識を深める。 身の回りの事象に対して分析的・総合的・多角的に考察できるようになる。また、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 生物事象に対して興味関心を持ち、自発的に学びに向かう態度を養う。									
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	態	
1	前半	24	第 1 部 生物の進化 第 1 章 生物の進化 第 2 章 有性生殖と遺伝的多様性 第 3 章 進化のしくみ		・生命の起源 ・生命の変遷と地球環境の変化 ・有性生殖 ・遺伝子の多様な組み合わせ ・突然変異と進化 ・進化の要因		生命が誕生、有性生殖の流れを理解している。		○	○	○	
	後半	24	第 1 部 生物の進化 第 4 章 生物の系統 第 2 部 生命現象と物質 第 5 章 生命と物質		・生物の分類と系統 ・3ドメイン説 ・細菌 ・アーキア ・真核ドメイン ・人類の起源と進化 ・物質と細胞 ・生命現象とたんぱく質		生命の進化と系統を理解している。 遺伝子が発現する過程を理解している。		○	○	○	
2	前半	28	第 3 部 遺伝情報の発言と発生 第 7 章 遺伝現象と物質 第 8 章 発生と遺伝子の発現 第 9 章 バイオテクノロジー		・遺伝情報の複製 ・遺伝子の発現 ・遺伝子の発現調節 ・動物の配偶子形成と受精 ・初期発生の過程 ・発生と遺伝子の発現 ・遺伝子を扱った技術		遺伝子の複製、発現についてかかわるタンパク質と関連付けて理解している。 動物の配偶子形成、受精、発生の過程について染色体の数や細胞の特性と関連付けて理解している。		○	○	○	
	後半	28	第 4 部 生物の環境応答 12 章 植物の環境応答		・植物の生殖と発生 ・発芽と成長		植物の生殖についてかかわる物質と関連付けて理解している。 発芽や成長に関係する条件について考え、根拠を持って説明している。		○	○	○	
3		36	総合演習		・共通テスト対策 ・私大入試対策		これまでに学んだことを振り返るとともに総合的に分析し表現している。		○	○	○	
評価の観点 (評価基準)			○授業、実験に主体的に取り組んでいるか。 ○基礎的な知識・技能が定着しているか。 ○生物現象について言葉で伝えることができるか。									
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物の総合評価									
学習の手引き			○授業に積極的に参加する ○様々な教材を有効活用し、知識の定着を図る ○すべての生物事象について自分の言葉で説明できることを目標にして学習に取り組む									
授業担当者			宮木 奈緒									

令和 7 (2025)年度				年 間 授 業 計 画					
教科・科目			理科		化学		2 単位		
対象学年・組			3 年生 理系(含む特進)		必履修				
教科書 (出版社)			化学（東京書籍）						
学習目標 【観点別】			○実験を通じ、科学的な概念や原理・法則を理解し、自然観を育成する【知識及び技能】 ○グループ学習等を通じ、論理的思考や説明能力を養う【思考力、判断力、表現力等】 ○身近な現象に疑問を持ち、主体的に探究する態度を養う【学びに向かう力、人間性等】						
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準	知	思	態
1	前半	12	第1章 物質の状態と平衡	1 節	状態変化	・状態変化に必要なエネルギーの計算を理解する。 ・物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連させて理解する。 ・公式を使って圧力、体積などを求める。	○	○	○
	後半	12	第2章 物質の変化と平衡	2 節	気体の性質				
2	前半	14	第3章 無機物質	3 節	固体の構造	・濃度、温度、圧力体積との関係を理解する。 ・触媒と反応速度の関係について理解する。 ・ルシャトリエの原理で反応の進行方向を推理する。	○	○	○
	後半	14	第4章 有機化合物	4 節	溶液				
3	前半	18	第5章 高分子化合物	1 節	周期表	・周期表と各元素の性質 ・典型元素と遷移元素の特徴 ・金属イオンの反応性について着目し、理解する。	○	○	○
	後半	14	第4章 有機化合物	2 節	非金属元素				
4	前半	14	第4章 有機化合物	3 節	金属元素	・構成元素の種類と化合物の数との関係に着目する。 ・置換反応、付加反応について理解する。 ・フェノールの製法、確認反応について理解する。 ・アニリンの製法や反応について理解する。	○	○	○
	後半	14	第4章 有機化合物	4 節	無機物質と人間生活				
5	前半	18	第5章 高分子化合物	1 節	高分子化合物	・高分子化合物の性質や反応を観察実験を通して探究し、特徴を理解する。 ・合成高分子化合物の構造や性質および合成について理解する。 ・天然高分子化合物の構造や性質について理解する。 ・高分子化合物が、人間生活の中で利用されていることを理解する。	○	○	○
	後半	14	第4章 有機化合物	2 節	合成高分子化合物				
評価の観点 (評価基準)			○授業や実験、観察について、主体的に取り組んでいるか。 ○化学的なものの見方・考え方を身に付けられたか。 ○自然現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。						
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物等により評価						
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○身の周りの様々な事象に対し疑問を持ち、科学的な見方や考え方で事象を捉えること。 ○仮説を立てながら観察・実験に主体的に参加し、探究する態度を持つこと。						
授業担当者			中村 圭一						

令和7(2025)年度										年 間 授 業 計 画				
教科・科目			保健体育			体育			2 単位					
対象学年・組			3 年生						必履修					
教科書 (出版社)														
学習目標 【観点別】			○各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 ○運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 ○生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】											
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容			評価規準			知	思	態			
1	前半	12	・体づくり運動 ・陸上競技			・体ほぐしの運動 ・体力を高めるための運動 ・短距離走			・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方を身に付ける。 ・合理的な動きと比較して成果や改善すべきポイントを発見し、仲間に伝える。 ・主体的に取り組む。			○	○	○
	後半	12	・球技			(男子) ・ソフトボール ・バスケットボール ・バレーボール (女子) ・バドミントン ・ソフトボール ・フットサル			・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。			○	○	○
2	前半	14	・球技			(男子) ・ソフトボール ・バスケットボール ・バレーボール (女子) ・バドミントン ・ソフトボール ・アルティメット			・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。			○	○	○
	後半	14	・球技			(男子) ・バドミントン ・アルティメット ・サッカー (女子) ・テニス ・バレーボール ・バスケットボール			・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。			○	○	○
3	18	・球技 ・体育理論	・体育理論			・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。			○	○	○			
評価の観点 (評価基準)		・授業への積極的な参加、学習意欲、学習態度を重点的に評価する												
評価の方法		・陸上などの個人種目では記録を評価する ・集団種目においては自分の役割を認識し、積極的に関わりを持てているかを評価する												
学習の手引き		グループ活動の中において、技能を向上するような指示や補助が出来るようにする												
授業担当者		伊藤、切通、松村、古里、鈴島、糟谷												

令和7(2025)年度																年 間 授 業 計 画					
教科・科目			芸術				音楽Ⅰ				2 単位										
対象学年・組			3 年生				必修選択														
教科書 (出版社)			MOUSAⅡ（教育芸術社）				音楽通論（教育芸術社）														
学習目標 【観点別】			1. 発声や呼吸に気をつけて、作品を理解しながら表情豊かに歌唱することができるようになる。 2. 器楽（ギター）の演奏法を習得し、ギターとピアノで合わせることができるようになる。 3. 幅広い音楽に触れ、生徒の音楽に対する興味・関心を深め、音楽を愛好する心情を育てる。 4. 楽譜の仕組みを理解し、簡単な創作ができるようになる。																		
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準			歌	器	創	鑑	知	思	態					
1	前半	12	歌唱 器楽（キーボード）		・夜の女王のアリア、愛の喜び、Tonight等 ・メリーさんのひつじ、こぎつね等		発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱することができる。 両手で簡単な演奏ができる。			○	○			○	○	○					
	後半	12	歌唱 器楽（キーボード）		・夜の女王のアリア、愛の喜び、Tonight等 ・むすんでひらいて、小さな世界等					○	○			○	○	○					
2	前半	14	歌唱 創作		・からたちの花、初恋等 ・単旋律の創作		発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱することができる。 短い詩に、単旋律を作る。			○		○		○	○	○					
	後半	14	歌唱 創作 鑑賞		・からたちの花、初恋等 ・単旋律の創作 ・オペラのアリア、合唱曲等					○		○	○	○	○	○					
3		18	歌唱 鑑賞		・初恋等 ・音楽史に関連した鑑賞等		発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱することができる。 年代や作曲家による楽曲の特徴を味わうことができる。			○			○	○	○	○					
評価の観点 (評価基準)			主体的な授業態度で、周りと協力し音楽を楽しむことができているか。																		
評価の方法			実技試験、提出物、小テスト、授業態度																		
学習の手引き			実技教科ですので、活動する時間が多くなってきます。 授業への出席や授業態度はもちろん、意欲的に活動に参加しましょう。																		
授業担当者			仲田 賀一																		

令和7(2025)年度										年 間 授 業 計 画							
教科・科目			芸術 書道Ⅱ				2 単位										
対象学年・組			3 年生				必修選択										
教科書 (出版社)			『書道Ⅱ』（教育出版株式会社）														
学習目標 【観点別】			・ 書の表現方法などについて理解を深め、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に着けるようにする。 ・ 書的美しさについての感受、創造的な構想、個性豊かな表現の工夫を通して、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く、捉えたりすることができるようにする。 ・ 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。														
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		漢 仮	漢	仮	鑑	知	思	態		
1	前半	12	・ 概説と導入、基礎確認と復習 ・ 漢字の書(篆書)		・ 『石鼓文』（拓本）の形臨 ・ 『呉昌碩臨石鼓文』做書 ・ 『甲骨文』の鑑賞 ・ 『召尊(金分)』の鑑賞 ・ 篆刻、木刻字の鑑賞		行動観察及び課題提出		○	○	○	○	○	○	○		
	後半	12	・ 漢字の書(隸書)、創作への応用		・ 『乙瑛碑』の形臨 ・ 『曹全碑』の形臨 ・ 『居延漢簡』の形臨 ・ 半切による多字数の做書作品を書き、落款まで書く		行動観察及び課題提出			○			○	○	○		
2	前半	14	・ 漢字の書(草書)		・ 『書譜』の形臨 ・ 『十七帖』の形臨 ・ 『忽恵帖』の形臨		行動観察及び課題提出			○	○	○	○	○	○		
	後半	14	・ 漢字の書(行書)		・ 王羲之『集王聖教序』の形臨 ・ 『争坐位稿』の形臨 ・ 『蜀素帖』の形臨		行動観察及び課題提出			○			○	○	○		
3		18	・ 仮名の美(仮名の古典) ・ 仮名の美(色紙への創作)		・ 『高野切』の形臨 ・ 変体仮名の練習 ・ 変体仮名の読み方テスト ・ 『寸松庵色紙』の形臨		行動観察及び課題提出		○		○	○	○	○	○		
評価の観点 (評価基準)			行動観察、板書による回答、用具用材の確認														
評価の方法			用具用材の確認、板書による回答などの行動観察と、課題提出による。														
学習の手引き			内容に応じて適宜プリントなどを配布する予定。														
授業担当者			松岡 久恵・伊藤 忠綱														

令和7(2025)年度										年 間 授 業 計 画									
教科・科目			芸術				美術Ⅱ				2				単位				
対象学年・組			3 年生								必修選択								
教科書 (出版社)			高校美術 2 （日本文教出版）																
学習目標 【観点別】			・美術、工芸の創造活動を通じて、美的感覚を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに芸術を愛好する心情を養う。 ・ものづくりを通して多くの経験をし、場面に応じて対応できる柔軟な思考をもつ。 ・さまざまな立場の人についての知識を培い、他者理解につなげるとともに、自身の生き方について考える。																
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標			指導項目・内容			評価規準			絵 彫	デ	映	鑑	知	思	態	
1	前半	12	オリエンテーション 【デザイン】配色			・年間の授業の確認 文章を読んで、そこからイメージし、色彩構成をする。			○授業規律を確認する。 ○鉛筆の持ち方、アタリの取り方、中心線の引き方、明暗の付け方、面で把握する見方、練り消しゴムの使い方など身につけているか。 ○主体的・協働的に学習活動に取組もうとしているか。			○	○		○	○	○	○	
	後半	12	【デザイン】日本の意匠			日本の伝統文様・伝統色の名前や意味について理解し、それらを活かしたユニフォームをデザインする。			○作品・作者の知識を広げているか。 ○観察力・思考力を伸ばせているか。 ○主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取組もうとしているか。				○	○	○	○	○	○	
2	前半	14	【絵画・彫刻他】作家研究			好きな作家について情報収集し、制作した後プレゼンテーションを行う。			○作品・作者の知識を広げているか。 ○情報収集を適切に行えているか。 ○ワークシート記入の内容と分量 ○作品制作の時間配分・進め方			○	○	○	○	○	○	○	
	後半	14	【絵画・彫刻他】作家研究			好きな作家について情報収集し、制作した後プレゼンテーションを行う。			○「伝える」ことを意識して、プレゼンテーションの計画を行えているか。 ○作品の細やかさ・丁寧さ ○傾聴力 ○ワークシート記入の内容と分量			○	○		○	○	○	○	
3		18	鑑賞			・DVD ・対話を重視した鑑賞 ・アートカード			○作品・作者の知識を広げているか。 ○観察力・思考力を伸ばせているか。 ○主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取組もうとしているか。				○	○	○	○	○	○	
評価の観点 (評価基準)			・主体的に授業に参加し、表現と鑑賞の能力を伸ばせたか。 ・各単元の目標を達成したか、さらに表現を追求できたか。客観的に自己評価できたか。																
評価の方法			出席状況・授業態度・ワークシートの内容・課題の完成度・計画性とその達成状況・試行錯誤の経過・後かたづけや整理整頓を行い、よい制作環境をつくる姿勢等																
学習の手引き			・学習に使用する道具（文房具から工具まで）を正しく安全に使えること。 ・自分の作品を大切にすること。毎時間新しい技術を身につけ、発見のある教科です。 ・試行錯誤する体験を数多く行います。忍耐と努力から傑作を生み出す喜びを味わいましょう。																
授業担当者			森田 真理子																

令和 7 (2025)年度										年 間 授 業 計 画									
教科・科目			外国語				科目				4				単位				
対象学年・組			3 年生								必履修								
教科書 (出版社)			Power On English CommunicationⅢ (東京書籍)				Power On English CommunicationⅢ WORKBOOK (東京書籍)/コーパス4500 (東京書籍) 他												
学習目標 【観点別】			基本的な語彙や文法を理解し、文章の内容を読み取ることができる。 情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えることができる。 積極的にコミュニケーションを取り、異文化理解を深める。																
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標			指導項目・内容			評価規準			聞	読	話 や	話 発	書	知	思	態
1	前半	24	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。			Lesson1 Library of the Future Lesson2 History Maker Otani Shohei			①語彙や文法の知識をもとに理想の図書館についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに大谷翔平についての英文を読み、要点や考えを伝えている。			○	○	○	○	○	○	○	○
	後半	24	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。			Lesson3 Zoo Dentists Lesson4 Nature Photographer in Alaska			①語彙や文法の知識をもとに動物の治療についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに松本紀生についての英文を読み、要点や考えを伝えている。			○	○	○	○	○	○	○	○
2	前半	28	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。			Lesson5 A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think Lesson6 Where Does Halloween Come from?			①語彙や文法の知識をもとにイグ・ノーベル賞を受賞した研究についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②ハロウィンについての英文を読み、要点や考えを伝えている。			○	○	○	○	○	○	○	○
	後半	28	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。			Lesson7 Will 3D Printing Technology Change the World? Lesson8 A Conductor of the Underground Railroad			①語彙や文法の知識をもとに3Dプリントの技術についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに地下鉄道の英文を読み、要点や考えを伝えている。			○	○	○	○	○	○	○	○
3		36	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。			Lesson9 English, Always Growing Lesson10 Understanding the Culture of Dogs			①語彙や文法の知識をもとに英語の歴史についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに犬の習性と文化についての英文を読み、要点や考えを伝えている。			○	○	○	○	○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)			定期試験を中心に評価する。その他、授業への参加度や提出物、授業内試験も考慮する。																
評価の方法			定期試験、授業内試験(ライティング・スピーキング・リスニング)、提出物、スピーチ等のプレゼンテーション																
学習の手引き			教科書、参考書、ワークブック、JETとのTeam Teachingにより指導																
授業担当者			伊志嶺 吏人・北原 理史・今川 明・稲垣 浩二																

令和 7 (2025)年度 年 間 授 業 計 画																	
教科・科目			外国語 論理・表現Ⅲ				2 単位										
対象学年・組			3 年生				必履修										
教科書 (出版社)			Harmony English Logic and Expression Ⅲ (いいずな書店)														
学習目標 【観点別】			基本的な日常表現を理解し表現できる。 自己の考えを論理的に表現できる。 英語を読む、書く、聞くの学習努力を継続する。														
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準			聞	読	話 や	話 発	書	知	思	態
1	前半	###	日常表現の理解		生まれた町の表現 文法、語法の基礎		英語を論理的に理解し表現する。			○		○		○	○	○	
	後半	###	将来の生活の予測		未来生活の予測と表現 文法・語法の理解		英語を論理的に理解し表現する。			○		○	○		○	○	○
2	前半	###	自己表現の方法 将来の自分自身の表現		好きなこと、嫌いなこと の表現 自己の就きたい職業に 関する表現		英語を論理的に理解し表現する。			○	○	○			○	○	○
	後半	###	環境問題に関する表現		全世界に及ぶ環境問題 の理解とその論理表現		英語を論理的に理解し表現する。			○	○			○	○	○	○
3			世界経済及び世界各地 の紛争の理解と表現		現代史の理解とその論 理表現		英語を論理的に理解し表現する。			○		○			○	○	○
評価の観点 (評価基準)			基本的な英語表現の達成と自己の考えの明確な表現の達成度														
評価の方法			定期考査、授業内の発表や参加度、長期休業中の課題、授業内テスト														
学習の手引き			日々の英語を読む、聞く、書くの努力、英語による自己表現の練習														
授業担当者			今川 明・植田 薫・百崎 優太														